

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 11 月 4 日 (2011.11.4)

【公開番号】特開 2009-39418 (P2009-39418A)

【公開日】平成 21 年 2 月 26 日 (2009.2.26)

【年通号数】公開・登録公報 2009-008

【出願番号】特願 2007-209549 (P2007-209549)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 9 月 16 日 (2011.9.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技盤面上に設けられ、特別入球口及び通常入球口を備えた入球装置と、
該入球装置へ入球した遊技球を検出する球検出手段と、
前記特別入球口を通過する遊技球を検出する特別検出手段と、
を備えた弾球遊技機において、
前記弾球遊技機の振動を検出する振動検出手段と、
前記球検出手段により遊技球が検出されてから所定条件が成立するまでの間に、前記振
動検出手段による振動の検出があることを条件に、報知を実行する報知制御手段 1 と、
該報知制御手段 1 による単位時間内の報知回数を計数する報知計数手段と、
前記球検出手段による単位時間内の遊技球の検出回数を計数する入球計数手段と、
を設け、
前記入球計数手段による計数値及び前記報知計数手段による計数値に基づいて、報知を
実行する報知制御手段 2 を備えたことを特徴とする弾球遊技機。

【請求項 2】

前記所定条件が成立するまでの間に、前記振動検出手段による振動の検出があり、且つ
、前記特別検出手段によって遊技球の検出があることを条件に、報知を実行する報知制御
手段 3 を備えたことを特徴とする請求項 1 記載の弾球遊技機。

【請求項 3】

前記球検出手段による遊技球の検出からの経過時間を計時するタイマ手段を設け、
該タイマ手段により計時される経過時間の所定値への到達を前記所定条件とすること
を特徴とする請求項 1 又は 2 記載の弾球遊技機。

【請求項 4】

前記タイマ手段による経過時間の計時中に、前記球検出手段による遊技球の検出があっ
たとき、該検出からの経過時間を前記タイマ手段により再度計時し直すことを特徴とする
請求項 3 記載の弾球遊技機。

【請求項 5】

音出力を行うスピーカと、

該スピーカにより出力される音量を調節する音量調節手段と、

を設け、

前記報知制御手段 1、2 又は 3 による報知においては、前記音量調節手段による調節にかかわらず、予め定められた音量での音出力を実行することを特徴とする請求項 1 乃至 4 記載の弾球遊技機。

【請求項 6】

前記報知制御手段 2 又は 3 による報知は、前記報知制御手段 1 による報知に比べて報知効果が高く設定されることを特徴とする請求項 5 記載の弾球遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項 1 記載の弾球遊技機は、遊技盤面上に設けられ、特別入球口及び通常入球口を備えた入球装置と、該入球装置へ入球した遊技球を検出する球検出手段と、前記特別入球口を通過する遊技球を検出する特別検出手段と、を備えた弾球遊技機において、前記弾球遊技機の振動を検出する振動検出手段と、前記球検出手段により遊技球が検出されてから所定条件が成立するまでの間に、前記振動検出手段による振動の検出があることを条件に、報知を実行する報知制御手段 1 と、該報知制御手段 1 による単位時間内の報知回数を計数する報知計数手段と、前記球検出手段による単位時間内の遊技球の検出回数を計数する入球計数手段と、を設け、前記入球計数手段による計数値及び前記報知計数手段による計数値に基づいて、報知を実行する報知制御手段 2 を備えたことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項 2 記載の弾球遊技機は、請求項 1 記載の弾球遊技機において、前記所定条件が成立するまでの間に、前記振動検出手段による振動の検出があり、且つ、前記特別検出手段によって遊技球の検出があることを条件に、報知を実行する報知制御手段 3 を備えたことを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

請求項 3 記載の弾球遊技機は、請求項 1 又は 2 記載の弾球遊技機において、前記球検出手段による遊技球の検出からの経過時間を計時するタイマ手段を設け、該タイマ手段により計時される経過時間の所定値への到達を前記所定条件とすることを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

請求項4記載の弾球遊技機は、請求項3記載の弾球遊技機において、前記タイマ手段による経過時間の計時中に、前記球検出手段による遊技球の検出があったとき、該検出からの経過時間を前記タイマ手段により再度計時し直すことを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

請求項5記載の弾球遊技機は、請求項1乃至4記載の弾球遊技機において、音出力を行うスピーカと、該スピーカにより出力される音量を調節する音量調節手段と、を設け、前記報知制御手段1、2又は3による報知においては、前記音量調節手段による調節にかかわらず、予め定められた音量での音出力を実行することを特徴とする

。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

請求項6記載の弾球遊技機は、請求項5記載の弾球遊技機において、前記報知制御手段2又は3による報知は、前記報知制御手段1による報知に比べて報知効果が高く設定されることを特徴とする。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

請求項 1 記載の弾球遊技機によれば、報知制御手段 1 によって不正行為が行われている可能性があることを報知し、報知制御手段 1 による報知で遊技者の注意を喚起する構成である。

そのため、不可抗力で弾球遊技機に衝撃を与えてしまった遊技者であれば、繰り返し衝撃を与える行為をしないため、報知制御手段 2 により報知が行われることはない。

従って、報知制御手段 1 が繰り返し実行されることによって報知制御手段 2 による報知が行われ、不正行為としてパチンコ機に打撃を与える遊技者のみを的確に判断することができる。

【 手 続 補 正 1 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 0 】

請求項 2 記載の弾球遊技機によれば、請求項 1 記載の弾球遊技機と同様の効果を奏すると共に、不正行為として振動を与えたか否かに関わらず（偶然であっても）、その振動によって遊技球が特別入球口に入球したことを報知制御手段 3 による報知することが可能となる。

【 手 続 補 正 1 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 1 】

請求項 3 又は 4 記載の弾球遊技機によれば、請求項 1 又は 2 記載の弾球遊技機と同様の効果を奏すると共に、入球装置内に遊技球が滞在している可能性が在るタイミングで、振動検出手段によって振動の検出がなされたことを報知制御手段 1 によって報知することができる。

【 手 続 補 正 1 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 2

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 2 】

請求項 5 記載の弾球遊技機によれば、請求項 1 乃至 4 記載の弾球遊技機と同様の効果を奏すると共に、音量調節手段による調節にかかわらず、報知制御手段 1 , 2 又は 3 による好適な報知を行うことができる。

【 手 続 補 正 1 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 3

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 3 】

請求項 6 記載の弾球遊技機によれば、請求項 5 記載の弾球遊技機と同様の効果を奏すると共に、不可抗力でも起こり得る可能性が高い報知制御手段 1 による報知に比べて、確実に不正と判断可能な報知制御手段 2 による報知や不正であるか否かは断定できないが利害に直接関係する報知制御手段 3 による報知の報知効果を高め、好適な報知を行うことができる。

【 手 続 補 正 1 8 】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 4
【補正方法】削除
【補正の内容】